

行動科学卒業生・特殊実験調査満足度別自由回答

- * 「特殊実験調査全体としての満足感」(Q10)の回答を3カテゴリにして加した。しかし、回答内容を見ても明らかなように、「満足度」は授業の在り方に関してというよりは、「自分の取り組みを顧みて」の意味で回答されている。直前(Q9)で「あなたの特殊実験調査に対する取り組み」を訊いたために、「キャリアオーバー」が生じた可能性があり、質問紙の不備も考えられる。
- * []内の属性は、一番目が性別、二番目が卒業年次別(新=新課程、旧=旧課程)、三番目が現職(院=大学院・専門学校、公=公務員・団体職員、民=民間・専門職・主婦・他)。末尾の()内は、サンプル番号で資料番号的な意味で付与した。

<<非常に満足>>

- 楽しかった。これからも期待しています。[女,旧,民](3)
- あの時だから、あんなに必死に取り組むことができたのだと思う。大学時代に達成感を得られる機会となっていていいと思う。[女,新,公](5)
- 論文(文章)の書き方まで指導していただけたことは、社会に出てからすぐに役立ちました。手順書や報告書などの作成をもれなくスムーズにおこなえたのは、特殊実験調査による、計画性、論理的思考の強化、およびその伝え方の学習の成果とっております。[女,旧,民](23)
- 研究とは何か、学問とは何かについて学ぶことができる、基礎的な授業だと思う。辛いこともあったが、やりとげた後の充実感は、他では得られないものだと思う。[女,新,院](25)
- 自分の取り組んでいることを一定の形にまとめたり、他の人に見せて意見をもらえるという姿勢を学んだし、それは専門的な職についた時にも必要とされる資質だと思う。また、自分の専門外のことにも興味をもって学ぼうと思える感性、他人の知識を喜んだり、自分に活用しようとする前向きさも得られたと思う。[女,旧,公](30)
- 行動科学の“売り”だと思います。特殊実験調査がなければ、入学していなかったかも…。[女,旧,公](44)
- 卒論と並び、私にとって大学の授業の中で最も心に残るものの一つです。特殊実験に時間が割かれ、他学科生のように余暇は多くなかったと思いますが、その分やり遂げた後の達成感は強く残っています。その経験は社会に出ても必ず役立ちます。[男,新,公](52)
- 社会学と心理学の両方で論文を書くということが、とても役立った。その学問がどういう学問なのかとか、もう一方の学問とはどのように違うものなのか、といったことに意識的にならざるをえない。[女,新,院](54)
- 卒業した今でもいい授業だったと思います。[女,旧,民](55)
- 自分の興味をもった内容に対し、多角的に目を向ける基礎をやしなうだけでなく、人前で物事を論理的に話すといったコミュニケーションの能力もやしなうことができ、非常に良い体験。出来るなら、

「心理」「社会」両面から、ある一つのテーマを通年で（半年で分けるとしても）研究していければ、より卒論にはつなげやすいかと思います。[男, 旧, 民] (61)

● とても忙しかったが、パソコンの使い方、基本的な論文の書き方が分かり、非常に勉強になった。何より、仲間ができたこと、先生と深く接するきっかけになったことは貴重な経験であった。[女, 新, 院] (62)

● 特殊をやる前は、勉強（学ぶ）に対し、受け身であったが、特殊を成し遂げた後は、自ら主体的に考えるようになった。それは学びに対してだけでなく、社会に対しても様々な疑問がわくようになり、社会情勢等にも目が向くようになった。今、振り返ってみると、自分が行動で学んだことがとても大きくて、有意義な時間を過ごせたと思う。多くの人と、そして先生方とも触れ合う時間が多く、様々な意見や考え方を聞け、質疑応答ができればもっとよかったなと思う。[女, 新, 院] (67)

● 卒論の前段階として、研究のしかた、分析法など、たくさんのことを学ぶことができました。これをきっかけとして、コースの友達もたくさん作ることができ、大学時代の貴重な思い出になりました。やっている間はたくさん悩みますが、必要な授業だったと思います！[女, 新, 院] (73)

● はじめる前は、不安がかなり多く、「自分にやり遂げることができるのか」と思っていたが、いざ始めてみると、楽しくて、とても充実した生活を送っていた時期だったように思う。たしかにとっても辛かったが、それがあったからこそ、今の自分があると思っています。[女, 新, 院] (74)

<<満足>>

● 社会に出てみて、学生時代とはまた違ったものの見方ができるようになった今、改めて特殊をやってみたいと思います。前よりも横井先生から「これはおもしろい！」と言ってもらえるような気がします。自主性を重んじるカリキュラムであったからこそ、こう思えるのかもしれませんが。[男, 新, 民] (2)

● もしカリキュラムの関係で特殊実験調査の単位（費やす時間）を減らすことが検討されているのであれば、卒論が4年次にあることだし、半分くらいに減らしてもいいかもしれない。[女, 旧, 公] (4)

● 卒論に取り組む準備の一つとして大切だと思います。（研究の進め方、論文の書き方等を学べる）ただ学生生活における特殊の割合はかなり大きかったので、他の勉強がおろそかになった面はあったと思います。[女, 新, 民] (6)

● 今思えばブレ卒論的な側面を強く感じる授業でした。折角、大学に入学したからには、学問の進め方？のようなものを学ぶことも大事だと思うので、その機会として有意義だと思います。ただ、これから入ってくる方々の考えや時代性etcも考慮に入れ、この授業のあり方をこれまでの枠に固執せず、柔軟に考えていくことも必要なとは思っています。[女, 新, 民] (7)

● ふり返ると種々なことを体験することができ、とても貴重な時間であったと感じる[女, 新, 民] (8)

● 特殊実験があるかないかで、卒論への取り組み方も結果も大きく違ってくると思う。研究についてもそうだし、教官や周囲の人たちとの交流にも大きな影響があると思う。活気生まれるのが特殊だと思う。これが重要なわけではない。でも長い人生で苦楽を共にした記憶は糧になります。人の発表やレ

ジュメを通して、自分が興味なかった分野に関心がもてるようになります。グループホーム、共生、フリーター問題、フロー、ノーマライゼーション…[女, 新, 民] (9)

● 上級生の発表を聞くことで、早い段階から「自分はどんな研究がしたいのか」を意識することができました。一人ではなく、級友たちの勉強の進め方を見たり、発表を聞くことによって刺激され、また幅広い分野の知識を吸収する良い機会でもありました。先生方からも丁寧に、熱心にご指導いただき、大学で学ぶ楽しさを知りました。[女, 旧, 公] (12)

● 自分が興味あることからテーマを見つけ、研究という形にしていく作業はそれまでの与えられる“勉強”ではなく、“学問”であったということが一番の特長だと思っています。その分、何をどうしていけばいいのか戸惑うことが多かったので、中間、最終発表の場が高配の特殊実験への導入になるよう、もっとコミュニケーションが充実するといいいのではないかと思います。(例として、意見を発表だけでなく紙に書いてやりとりするなど後輩が質問できる機会が増えると良いのではと思います)[女, 新, 院] (13)

● 自発的に勉強するという週間ができるのは、良いと思います。[女, 旧, 民] (14)

● 単に“考える”のではなく学問として物事を“考える”のはどういうことかを教えてもらえた。又、卒論の練習としてとても役に立った。特殊実験なしにいきなり卒論だったらもっと大変だったと思う。[女, 旧, 民] (15)

● まさか廃止するなんてことはないですね？[男, 旧, 公] (16)

● 幅広い年代の方と「会話する」という点で有意義だった。調査の結果というよりも、「経験した」という実感が強い。具体的ではないが、社会人になり「特殊実験調査をやった」ということが(根拠のない?)自信になったような気はする。[女, 旧, 民] (17)

● 妥当なものとして一般的に認められるものとなるよう基本形をいくつか指導してもらえたら、さらに良かったと思う。心理・社会の双方から物事を見ることが出来たのも多角的視野を得るのに役立った。私の場合、心理で深め、社会で広められたと思う。(同じテーマだったので)[男, 旧, 院] (20)

● 「社会調査法」と「基礎実験」を1年間やり通した後だからこそ、「特殊実験」が充実していたと思う。「社調」と「基礎実験」でディスカッションするハビトゥス(?)が身につけていたからこそ、「特殊実験」の毎週の進行状況発表会で「ああこうだ」と議論できたと思う。特殊実験の充実感は、「報告書」だけによるのではなく、そういう毎週の積み重ねに支えられていたんじゃないでしょうか。「特殊実験」だけ充実させようとしても、「論文執筆の作法を学びました」ということにとどまるのではないかと心配です。学生人数が多くて大変だと思いますが、やはり2年生時の年間通した授業が偉大だったと思います。[男, 旧, 院] (24)

● 自分のやりたいことを自由に研究できる点と、他の人の研究からも学べる点、互いに議論しあって先に進んでいける点など、有意義であると思う。ただ、期間が短いため、中途半端で終わらせなければいけない点が不満であった。[女, 新, 民] (26)

● 分析室を、本来の目的以外で使用する人が多く、私物化されている点について。(確かに、学生生活ならではの貴重な時間を仲間とすごせる場であるが、それにも限度は必要ではないか?) [女, 新, 院] (31)

● 編入だったこと、長い間学問から離れたかったこと、研究の方法論が未熟だったこと等から、前期の

特殊実験調査はよく分からないままに終わってしまった印象が強い。又、研究室に寝泊りしている様子を見た時には、行動の名物的な行事なのかと思ったりしたが、悪い印象ではない。発表での質疑・応答では、自分の発表がやっとなため、他の学生の発表を聞いてもすぐに理解できず、意見交換に参加できずに残念だったのでレジュメはもう少し前に配布した方が良いのではないかと思った。[女, 新, 院] (35)

● 大学に入学して初めての大きな課題ということで、完成するまで不安を感じていました。大変だなぁ、負担だなぁと思うこともありましたが、そのおかげで同級生、先輩、先生とも頻りに話ができ、時には議論をして様々なことを考えることも出来たと思います。しかし、友人、先生と頻りに会える環境、親しく交流できる環境でないと、自分自身やり遂げられなかったかもしれないなぁと思うので、特殊実験を成功させるには、研究室の雰囲気重要だなぁと思います。[女, 新, 民] (37)

● 自分の興味に沿った事を研究できる機会は、とても貴重だと思う。乗り切れてよかったが、専門的な方法を理解していくことは、もっと時間のいることだと思ったり、研究やテーマへの関心の持ち方にも個人差があったと思う。[女, 新, 院] (39)

● 別の大学を卒業した人と、お互いの学生時代の話をする中で、この授業の存在がいかに大きく、自分にも多大な影響を与えているか、改めて強く感じました。この授業は、教官にはすごく大きな負担だと思いますが、学ぶ楽しさを教えてもらいました。すごく大切な授業でした。[女, 旧, 院] (41)

● 自分でテーマを見つけ、それに対して調査、研究をし、発表するという一連の流れを、ゼミという枠を越えて、ある一定期間じっくりと取り組めるという観点からすると、学部内の様々なコースにおいて、特殊実験のような授業形態は有効であると思います。一方で、実験、調査という面に重点を置くのであれば、やはり行動科学ならではの、という感じがします。「演習」なのか「調査、発表」なのか、どこに重きを置くかで重要性、有効性は変わると思います。(扱う内容によっても) [女, 旧, 民] (42)

● 期間が短く、研究をまとめるのに苦労したが、一定の期間内で自分の考え、行ったことを他人に伝えようと努力した経験は社会人になった今から振り返るととても重要だったと感じる。[男, 新, 公] (43)

● 特殊実験調査は大学生にとってとても有意義で贅沢な時間の過ごし方だと思います。[女, 旧, 公] (45)

● ある程度長時間に渡ってひとつのテーマに取り組むことで、計画性をもってものごとに取り組む姿勢を学ぶことができたように思います。ゼミとはまた違い、自分が興味をもったテーマにじっくり取り組むことが出来る時間は、今振り返ってみても有意義な時間でした。[女, 旧, 公] (46)

● 社調法→特殊実験→卒論の流れの中で、考え方を学び、自分で考えてみて、それをいかに伝えるか悩み、反応が得られて議論の中からまた考える、ということを経験できたと思います。無我夢中の苦しいときもありましたが、あの時期にあの時間を過ごせたことは、今、いろいろなことを考える基盤を作ってくれていると思います。[女, 旧, 公] (47)

● 半年という決められた期間に、自分でテーマを見つけ、自分で進めていく、そして悩んだ時には先生や同期という心強いパートナーがいる。大学3年という時期に、2回これを経験することで、卒論の方法論だけでなく、社会に出てからも必要とされる「自分で課題、目標を見つけ、これを達成させるために考え行動していく力」を自然と身につけることができると思う。又、先生や先輩、後輩、同期との接触も多いため、コミュニケーション能力も自然に身につけやすい。課題に対して、楽しく取り組む工夫もできるので、とても自分のためになった授業でした。学生にとっても教官にとっても、時間などの

拘束もあり、苦しいかもしれませんが、今の学生には、ぜひ行ってあげてほしいです。[女, 旧, 民] (50)

● 大学生活をととても忙しくさせる要因になりましたが、卒論を3回書いたようなもので、とても充実した良い授業でした。大学の資料、施設、先生、仲間等に囲まれた環境で自分の好きなテーマの研究が出来るなんてもうないので貴重な経験でした。[女, 新, 民] (51)

● いろいろな分野に触れることができ、一つのことについてのいろいろな角度からの見方を知ることができた。前期と後期で社会学的なものや心理学的なもの2分野で、それぞれテーマを決めて研究したが、前後期ともに同じテーマで、社会学的な側面からの研究と、心理学的な側面からの研究をできればよかったと思う。(一つのテーマを2つの側面、切り口で研究するのもよいかと思った) [女, 新, 民] (53)

● 卒論の前に特殊実験を経験させていただいたことで、より卒論を充実したものにできたと思います。卒論は、自らテーマを定め、方法を考え、人前でまとめて発表するという全ての段階を通じて、社会に出てからも必要なスキルを持っています。これを事前に体験できることは、非常に有意義だと考えます。[女, 旧, 民] (57)

● 自分自身の研究だけでなく、他の友人たちの研究テーマなどや研究方法など刺激を受けることが多く、友人の知らない側面を見たり、みんなで協力して発表の準備をするなどよい思い出です。[女, 旧, 公] (59)

● 書いたものが残る、考えたことがかたちになるということを少々辛さとともに体験できる機会でした。おそらく後にも先にもあれ程青臭い文章を書くことはないと思います。[男, 旧, 民] (66)

● 学習の仕方、発表の仕方など、現在の自分にとっての基礎となるものを身につけることができたと思います。それぞれが異なる関心を持ち、異なるテーマで研究を行っているにも関わらず、在学中に仲間との一体感をもっとも感じることでできた授業であり、大変有意義なものであったと感じています。[女, 新, 院] (69)

● 特殊に取り組むうえで大切なのは「やらされている」ではなく、「自分のやりたいことをやっている」という気持ちだと思う。そういう気持ちを持つことができれば、特殊からは本当にたくさんのご恩恵を得られるし、卒論にも生かされると思うので、そういう気持ちをもって各々が取り組めるような特殊が続いてほしい。[女, 新, 院] (71)

● 研究の出来うんぬん、研究の手続き、やり方よりも、1つのことにせまっていく思考のアプローチのプロセスが、自分が生きていくために、とても重要なものになった。また、そういう時間を誰かと共有しながら進めていける、というのもすごくプラスになった。深みのある個人とか、深みのある関係、そういうものを得た気がして、感謝しています。[女, 新, 公] (72)

<<非・満足>> (「どちらともいえない」+「やや不満」+「非常に不満」+「その他」)

● 自分自身あまり真面目な学生とは言い難かったが、厳しい状況(徹夜等)の中で、共に励まし合って取り組む楽しさを知ることができた。深い付き合いができるというのも醍醐味の一つだと思う。また、調査や実験を自分自身で計画していくことで、手順を覚えることが出来るので、卒論がスムーズに進むと思う。(かといって“卒論のためだけの特殊”という位置づけは勿体ない[半年もかけているので]なのですが・・・)ただ“自発的に取り組む姿勢”を身につけるにはとても良い手段だと思う。(社会に

出ると受け身だと色々厳しいので・・・) また大勢の人前で発表する機会を卒論と合わせて多く持つことで、度胸もつくしプレゼンとかの良い練習になる。社会でも役に立つ。[女, 新, 民] (18)

● 自分で問題点を設定し、中間報告、最終報告というプロセスの中で友人と批評し合いながら論文を作り上げるということに大変意義があると思います。他コースでもぜひ採用してほしいカリキュラムです。[男, 旧, 民] (19)

● 私自身は、テーマを絞れず(というかさがせず)苦勞した記憶があります。その人自身が何か興味を持っていてれば充実したものになると思いますが、あまりそうでない人には、一緒にさがすようなヘルプが必要かと思います。(大学とは自発的に勉學にとりくむところなので、甘えた意見だと思いますが) 卒論を意識すれば、よりよいものになったかも…。特殊実験調査については、学ぶということの楽しさを感じるいい、そしてまた必要な授業だと思います。[女, 旧, 民] (29)

● 社会に出て具体的に役に立ったと感じることはありませんが、なんらかの形で身についたものがあると思います。学んだ内容よりも、学ぶ姿勢が。[女, 旧, 民] (32)

● 当時はそれなりに頑張っているつもりでいたが、卒業して数年が経って思い返してみれば、本来であればもっと自分自身と向き合い、自身の関心を突き詰め、自主的に学ぶ力や、計画性等を身につけることができたものを何ともったいのないことをしたのか、と。[女, 旧, 民] (33)

● 有意義だが負担が大きい(時間的に)。卒論指導を受ける4年生と特殊実験調査の3年生とで時間が充分確保できる形で進めてほしい。担当の教官ごとに学生に要求するレベルに大きな差が出ないようにある程度の統一した基準が欲しい。[男, 新, 公] (48)

● 行動科学講座では、他にも参加型(実習型)の授業が多いので、特殊実験だけが特別な授業という感じはあまりありません。他コースで実践するとすれば、社調法や農村実習なども価値ある授業だと思います。[女, 旧, 公] (58)

● 取り組む前の基礎をもっとしっかり指導してほしかった。どんな領域があって、どんなことができるか、などを知ってからやりたかったから。…でもこれは学生個人の問題のような気もするので強くは言えませんが…。動機づけが難しかったです。個人的には。[女, 新, 民] (60)

● ただ「やらされているだけ」だと感じてしまえば、途端に「意義のない」カリキュラムになりかねないので、心理・社会に抛らず、情報・哲学系も含め、自由なテーマ設定をした方がよい。しかし「自由履修」ではなく「必須」として、やはり、卒論の下地あるいは若き日の思い出として、体験してほしい。[女, 新, 院] (63)

● はじめはなぜこんなにも大変そんなことをしなければならぬのかと思ったが、終えてみて、卒論を書いてみて、特殊実験での経験や知識が貴重なものであると気づいたし、とてもいい思い出である。その一方で、もっともっと取り組めることがあったのではとも思う。もっとじっくりと取り組むことが出来るカリキュラムになれば、より得るものの大きい授業になるのではと思います。[男, 新, 院] (65)

● 大学に入って以来、初めての自分中心の研究だったので、終わったときややっているとときの充実感があったと思います。[女, 新, 院] (68)